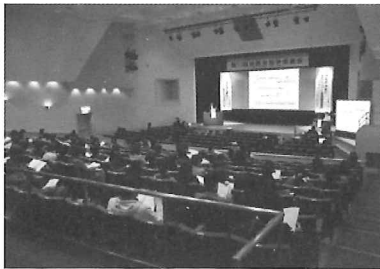


皆様の大きなご支援のもと、大阪医療について討論できましたことに深く感謝いたします。

第11回佐賀支部学術集会

学術集会会長：唐津赤十字病院院長 志田原 哲



会場風景

2013年2月16日(土)、唐津市文化体育館文化ホールにおいて「チーム医療と地域連携～施設から地域へ～」をメインテーマに、第11回佐賀支部学術集会を開催しました。

約250名の参加があり、一般演題37題の発表について、活発な討論が行われました。また、クリティカルパスも4題展示しました。

特別講演では九州大学大学院医療経営・管理学教授の尾形裕也先生に「医療提供体制の長期ビジョンと医療機関経営」と題して、日本の医療提供体制の現状分析や今後の方向性について、また経営者としてのあるべき立場について、専門家としてのご講演をいただきました。続いて行われたシンポジウムでは「地域医療連携を効果的に進めるためには」をテーマに、医師、看護師、薬剤師、MSWの5名のパネリストから、それぞれのお立場からの貴重なご意見をいただきました。やはり、地域連携を図るためには、知識の共有のもと、顔の見える連携を図ることが重要であるとの意見が多く出されました。

最後に、本学術集会の開催に当たり、ご協力ご支援いただきました皆様方に心より感謝申し上げ、開催の報告いたします。

第13回大分県支部学術集会

学術集会会長：大分県厚生連鶴見病院院長 藤富 豊

2013年2月16日(土)、大分県厚生連鶴見病院南館5階研修ホールにおいて、192名の参加により、第13回大分県支部学術集会が開催されました。「評価される病院になるための各部門の役割は～医療マネジメントにおける事務・管理部門の役割～」をテーマとし、特別講演1題、一般演題27題、ランチョンセミナー1題の発表が行われました。

特別講演は、国立病院機構長崎川棚医療センター院長、日本医療メディエーター協会九州支部代表 宮下光世先生に「病院内コンフリクト・マネージメント～病院全体で取り組むことの意義～」と題して講演頂き、予想した結果と実際に行われた医療の結果が違う時に起こりうる不満の感情である医療コンフリクトに対して、病院全体でどのようにしてメディエーター・マインドを醸成していくのか

についての示唆に富んだ講演でした。

ランチョンセミナーは、大分県厚生連鶴見病院院長 藤富 豊先生に座長をお願いし、大分市医師会立アルメイダ病院緩和ケア内科部長 首藤 真理子先生に「東京での在宅緩和ケアの現状」についてご講演頂きました。東京都葛飾区における在宅療養支援診療所での取り組みについてのご講演でした。



会場風景

一般演題は、専門職としての使命感、医師患者関係とコミュニケーション、医療の質と安全、医療情報、チーム医療、予防活動、地域医療、医療と福祉の連携、慢性疾患、複合疾患の管理、脳血管障害後遺症など活発な質疑応答がありました。

本学術集会の開催にあたり、ご協力頂きました皆様方に心より感謝とお礼を申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

第13回東京支部学術集会

学術集会会長：河北総合病院診療統括部長 尾形逸郎



会場風景

2013年3月2日(土)に東医健保会館にて第13回東京支部学術集会を開催いたしました。「診療の質向上～取り組みとその検証～」をメインテーマとして、

演題数46題、約200名の方々にご参加をいただきました。

基調講演では聖路加国際病院院長の福井次矢先生から「医療の質と安全：測定・向上への取り組み」と題して聖路加国際病院の取り組みと取り組んだ結果、質が向上した事例、今後の展望について大変参考になるご講演をいただきました。ランチョンセミナーではNTT東日本関東病院院長の落合慈之先生から「JCIを取得して」、国立国際医療研究センター病院の萩原 将太郎先生から「多職種栄養サポートチームによる医療経済効果」をご講演いただきました。またシンポジウムでは「診療の質向上～取り組みとその検証～」をテーマに4名のシンポジストの方にお話をいただき、活発な意見交換が行われました。

最後に皆様のご協力と多大なご支援により、学術集会を盛会の内に終了できたことに感謝申し上げます。